



■この授業で付けたい力

古代ギリシャ・ローマ・ルネサンス等の彫刻や日本の仏像に親しむ機会を設ける。また立体感覚・空間認識力を養うとともに立体造形の楽しさを味わう。

■材料・用具等

○材料

石粉粘土(ラドール)、アルミ針金(2mmφ)、アルミ箔樹脂板(10mm厚:台座)、麻ひも、木工用ボンド、アクリル絵の具、メディウム等

○用具

粘土ペラ(プラ)、クリアフォルダー(粘土板代用)、彫刻刀、サンドペーパー、水彩用具、ボール盤、水スプレー、彫刻・仏像フィギュア(参考資料)

費用: 約¥800

○授業: 約20時間



■展開

●導入(3h)

自分が作りたい作品を①西洋彫刻、②仏像、③アニメ等のフィギュアから選択します。①②教師側が用意したミニチュアの彫刻・仏像フィギュアを資料とします。③はWEB等で資料を探します。フィギュア、資料をよく観察して4方向からスケッチをします。次にスケッチに骨組みとなるアルミ線の位置を赤ペンで書き加えます。

●骨組み制作(2h)

アルミの針金で人体の骨組みを作ります。体の中心の軸の流れを捉えるように気をつけます。腕は胴体とクロスするようにして麻ひもで結んで取り付け、石粉粘土をかぶせておきます。長さを確定できない首、脚、腕は長めにしておきます。立像は左右の脚の開き方、腰骨と大腿骨の関係や重心のかかっている脚等に注意を払うようにします。

像の高さを設定し、アルミ線を切断します。樹脂板(10mm厚)にボール盤で穴(深さ7mm)を開け脚部分のアルミ線に接着剤をつけ差し込みます。立像は18~20cm、胸像は14cm前後が目安。像が大きくなると粘土の使用量が3乗で急速に増えていくので注意が必要です。

木工用ボンドを使ってアルミ線にティッシュペーパーを固く巻きつけます。巻き方が弱いと粘土がつきにくいので注意します。うまくいかない時は上から接着剤をつけてなでつけておきます。腕の部分にはまだティッシュペーパーを付けない方が作業しやすいでしょう。

胴体、頭部などふくらみの大きい部分にアルミ箔を押し付けるようにしてかぶせません。実際に作る像の形から粘土の厚みを除いてくようにします。要所には麻のひもを固く巻きつけます。紐は2cm程度の間隔を空け、1~2周巻いたら端を固く結ぶようにします。アルミ箔部分を全部麻ひもで覆う必要はありません。

●肉付け(6h)

粘土は必要量を手に取り、表面に粘土ペラなどでたくさん穴を開け水をスプレーしてよく練ります。(耳たぶぐらいの柔らかさ)長く手に取っていると、手の温度で乾燥するので水を加えて練ったり、チャック付きのポリ袋に入れるなどしておきます。



胴体に粘土で肉付けをしていきます。腕のあるものは肩幅を決めてからアルミ線を曲げて体全体とのバランスを良く見ていきます。

首や足首、ウエストなどはポーズが確定するまでは粘土を付けないでおきます。粘土ペラを使うと粘土が扱いやすくなります。表面に水をつけてならずとヒビが入るので注意。

●細部制作(5h)

首や腰、膝などは像の姿勢を決めてから粘土をつけていきます。固まった粘土には水をスプレーすると新しい粘土がよく密着します。出っ張りすぎている部分はヤスリ、彫刻刀などで削ったりペンチなどで押し込むと内部のアルミ箔が凹み形を修正できます。腕や頭部など長すぎるアルミ線はペンチで切断します。

●仕上げ、塗装など(3h)

細部を彫刻刀やサンドペーパーで仕上げます。柔らかい部分はつまようじやヘラを使います。彩色した細かなパーツも取り付けます。ツヤを出したい時はアクリルガッシュにグロスメディウムを50%程度混ぜます。

●相互鑑賞(1h)

お互いの作品を見合って良い所を話し合います。美術室の廊下に展示なども行います。

●完成作品

仏像、土偶、西洋彫刻、アニメキャラクターなど多岐にわたります。手前のみかんは余った時間で生徒が作ったもの。

●生徒の反応

「粘土は幼稚園以来で楽しかった」
「文化祭で役に立ちそう...」
「思うように作れなくて難しかった」
「めっちゃ、楽しい。手がべとべとになった」
「色塗りで失敗した」

●参考

PADICOホームページ(ラドール発売元)
<http://www.padico.co.jp/>

■観点別評価

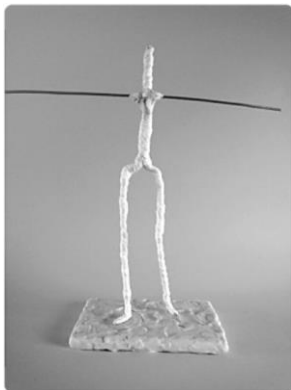
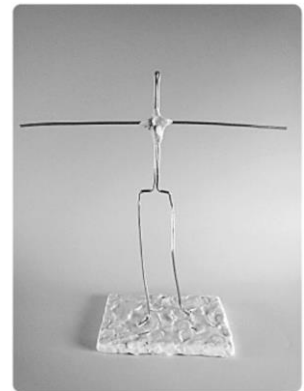
- ・美術への関心・意欲・態度
美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組みうとしたか。
- ・発想や構想の能力
感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練ることができたか。
- ・創造的な技能
創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表すことができたか。
- ・鑑賞の能力
美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうことができたか。

美術授業プリント 石粉粘土で人体像を作る

◆STEP1

芯材をつくる① | アルミ線を組む

- 1、 アルミ線で作品の中心を流れる軸をとらえるように形をつくります。長さを決めにくい手・首・足などの部分は、アルミ線を少し長めにして組み立てるといいでしょう。
- 2、 結合部分は、ひもやセロハンテープで結んで、石粉粘土(ラドール)をかぶせておきます。
- 3、 人形の足を開いた状態で粘土を盛り付けたときに安定する位置を決めましょう。
- 4、 アルミ線の下部は、2mmφのドリルで穴をあけた台座に微量の接着剤をつけて差し込む。足元は石粉粘土で覆って台にします。



◆STEP2

芯材をつくる② | ティッシュとボンドで粘土の下地をつくる

- 1、 アルミ線の胴体部分に、ボンド(グロスメディウム)をつけてティッシュを巻いていきます。アルミ線に粘土をじかにつけると、作品が乾いてからたるんだり亀裂が入る原因となります。
- 2、 このとき、アルミ線の腕の部分にまでつけると、胴体の作業がしにくくなるので、胴体の肉付けが終わってからにします。
- 3、 ボンドが乾いたら、粘土を肉付けする作業に入ります。

◆STEP3

肉付けをする | 粘土をおおまかにつけて、動きの感じを出す

- 1、 ティッシュを巻いた胴体に肉付けをしていきます。(粘土は使う前に水をすこし加え、耳たぶぐらいの柔らかさに良く練って使う。時間が経つと硬くなるのでその都度水を加えて練る。)
- 2、 その際、腕のアルミ線は肩幅を決めてから曲げて、体全体の流れを感じるように作っていきます。
- 3、 粘土をつけるとき、少しずつ芯に向かって押すようにつけます。ボディのフォルムがある程度肉付けできたら、腕にもボンドをつけてティッシュを巻き、全体と部分の関係を見ながら、肉付けをしていきます。
- 4、 肉付けが済んだ段階で、手、足、首の長さを決めてペンチで切断します。組んだアルミ線が短か過ぎたら、粘土で補うか粘土にアルミ線を差し込んでつなぐと補修できます。



◆STEP4

小物をつくっておく | ボディサイズにあわせた小物づくり

- 1、 像に持たせる小物をつくる場合は、体全体のサイズや腕の間隔を決めてから作業しましょう。
- 2、 細いパーツはアルミ線などの芯材を中に入れてつくっておきます。

◆STEP5

完成 | 全体のフォルムとバランスをつかみながら仕上げる

- 1、 造形中に乾燥してきたり、粘土のつきが悪いときは、水で練って肉付けを行っていきます。
- 2、 全体のバランスを見ながら肉付けを行います。水で表面をツルツルするとひび割れの原因になるので注意しましょう。
- 3、 乾燥後に肉のつけすぎに気がいたら、彫刻刀で削ります。
- 4、 また、不自然なへこみ等は水を加えて少しやわらかくした粘土を盛っていきます。
- 5、 乾燥後にひび割れなどができた場合には、粘土に水を加えてペースト状にしたものを割れに埋め込んで補修します。
- 6、 彫刻刀で削ったりサンドペーパーを使って仕上げます。必要に応じてアクリル絵の具等で彩色等も行います。

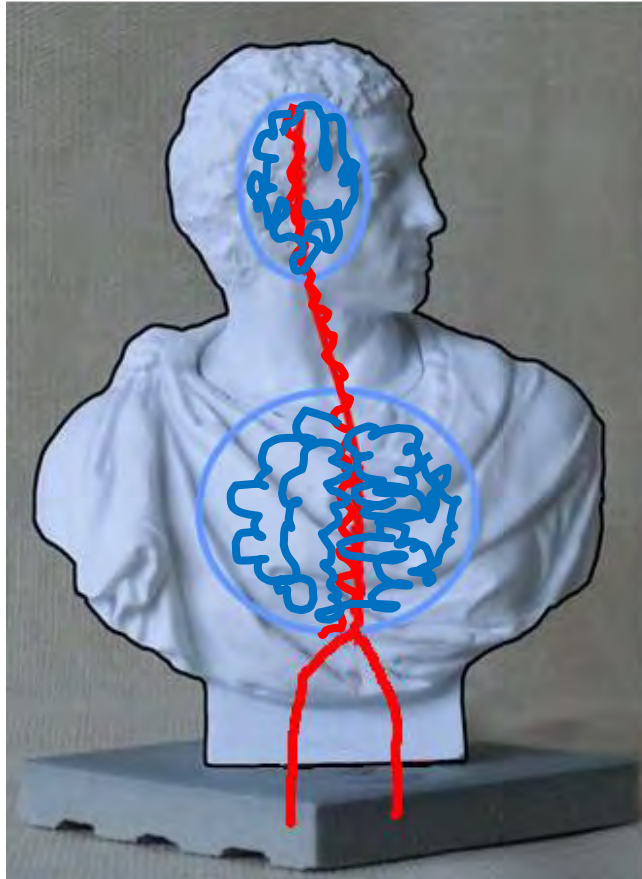


美術授業プリント 骨組みの参考

東大寺金剛力士像
青い部分は別パーツとして作るとよいかも



ブルータス像(ミケランジェロ作)
青い部分にアルミ箔をつけて麻縄を巻くと良い。



細身の像はアルミ箔なしでもOK
赤・青の線はアルミの針金

赤・青の線はアルミの針金 さらに下の図も参考に…

ボリュームのある部分にはアルミ箔をつけ、粘土の厚みが2cm(およそ)以上にならないようにする。



参考:アルミ箔が大きすぎないように注意

粘土の食いつきをよくするために麻縄を巻く
(こんな感じでOK~ ↑ ↑ ↑)

授業プリント『西洋彫刻・仏像などの像を製作する』

年 組 番 氏名

目標 : 古今の名作と言われる仏像、西洋の彫刻などを石粉粘土で作ってみよう

■材料

石粉粘土(ラドール)、プラベニア(台座)、アルミ針金2mm、新聞紙、麻なわ、木工用接着剤、
アクリル絵の具

■製作する彫刻を決める

彫刻・仏像の名前 : _____

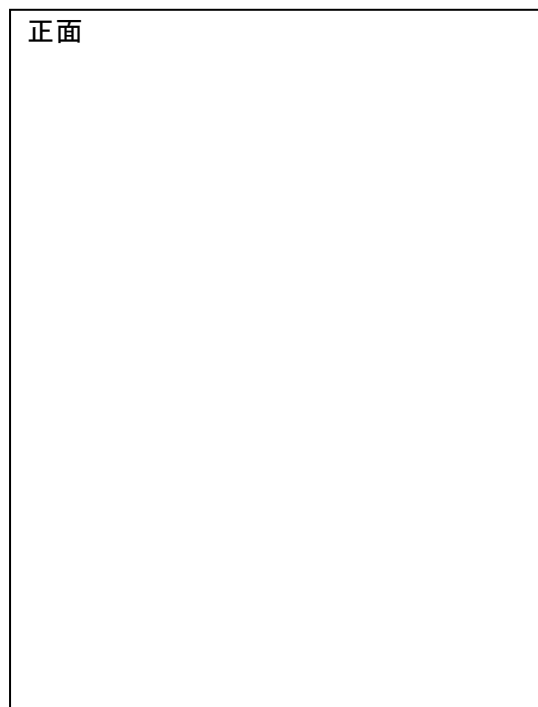
制作年代 : _____ 作者 : _____

所蔵・備考 : _____

■彫刻の形をよ〜く観察して下の枠内に書いてみよう

■次に、アルミ線、アルミ箔のかたまり(麻縄巻き)の部分を赤線で書き込んでみましょう。

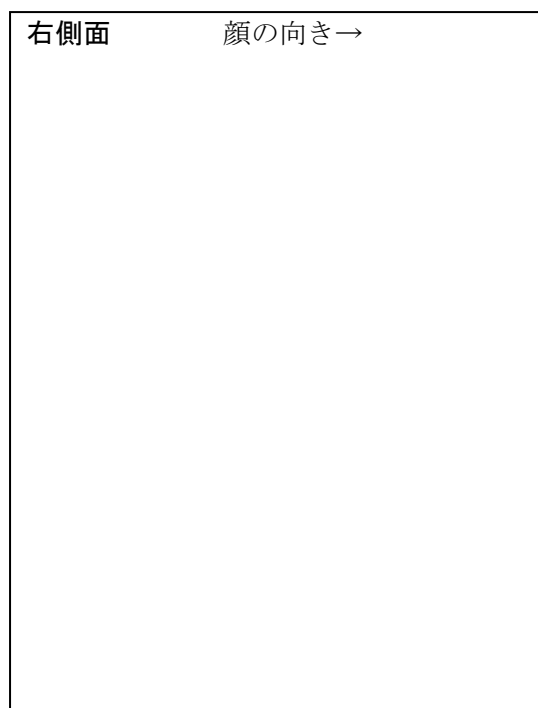
正面



背面



右側面 顔の向き→



左側面 ←顔の向き



* オリジナルを作る人は、製作予定のモノの各側面の図を描きましょう。